



平成 21 年 12 月 3 日

報道資料

社団法人 日本オーディオ協会

平成 21 年度 第 14 回「音の匠」の顕彰

社団法人日本オーディオ協会（会長 校條 亮治）は、音楽、オーディオ、レコードなど「音」の文化について多くの人々に認識していただき、また音楽とオーディオ産業発展のために、（社）日本レコード協会、（社）日本音楽スタジオ協会などと協調して、1994 年に 12 月 6 日を「音の日」と決めました。

この 12 月 6 日は発明王トーマス・エジソンが 1877 年、世界で初めて蓄音機「フォノグラフ」を発明した日であり、音を記録し再生するオーディオの誕生日ということになります。

「音の日」の記念行事の一つとして、日本オーディオ協会は 1996 年より音を通じて文化や生活に貢献した方々を「音の匠」として顕彰し、広く一般の方々に素晴らしい音の世界を認識していただく活動をつづけております。

第 14 回目にあたる本年度は次の方々を顕彰します。

「音の匠」

最古の再生音楽機器として現代においても根強い人気で人々を癒し続けているオルゴールの世界で、とりわけ伝統あるアンティークオルゴールの技術と音を現代に継承する修理技術で永らく活躍されている個人の方を顕彰する。

井上 正二郎 様 （オルゴールの小さな博物館）

大谷 ^{いさお} 勲 様 （おでんせ）

大森 ^{ひろむ} 裕武 様 （ハイランドアンティーク）

「音の匠特別功労賞」

伝統あるアンティークオルゴールの「技術」と「音」を現代に継承するための「オルゴールの小さな博物館」運営とそのためのメカニックの育成によりアンティークの完全な形での再現を行い、感動を提案し続ける活動、および各種アンティークオルゴールに関する著作、CD 制作を通じたアンティークオルゴールの普及活動に対し顕彰する。

名村 ^{よしひと} 義人 様 （オルゴールの小さな博物館 館長）

以上

（添付資料）

- 1 . 顕彰者のプロフィール
- 2 . 過去の「音の匠」受賞者一覧

データ資料は報道関係者様専用ダウンロードサイトよりご利用いただけます。

アドレス <http://www.jas-audio.or.jp/press/>